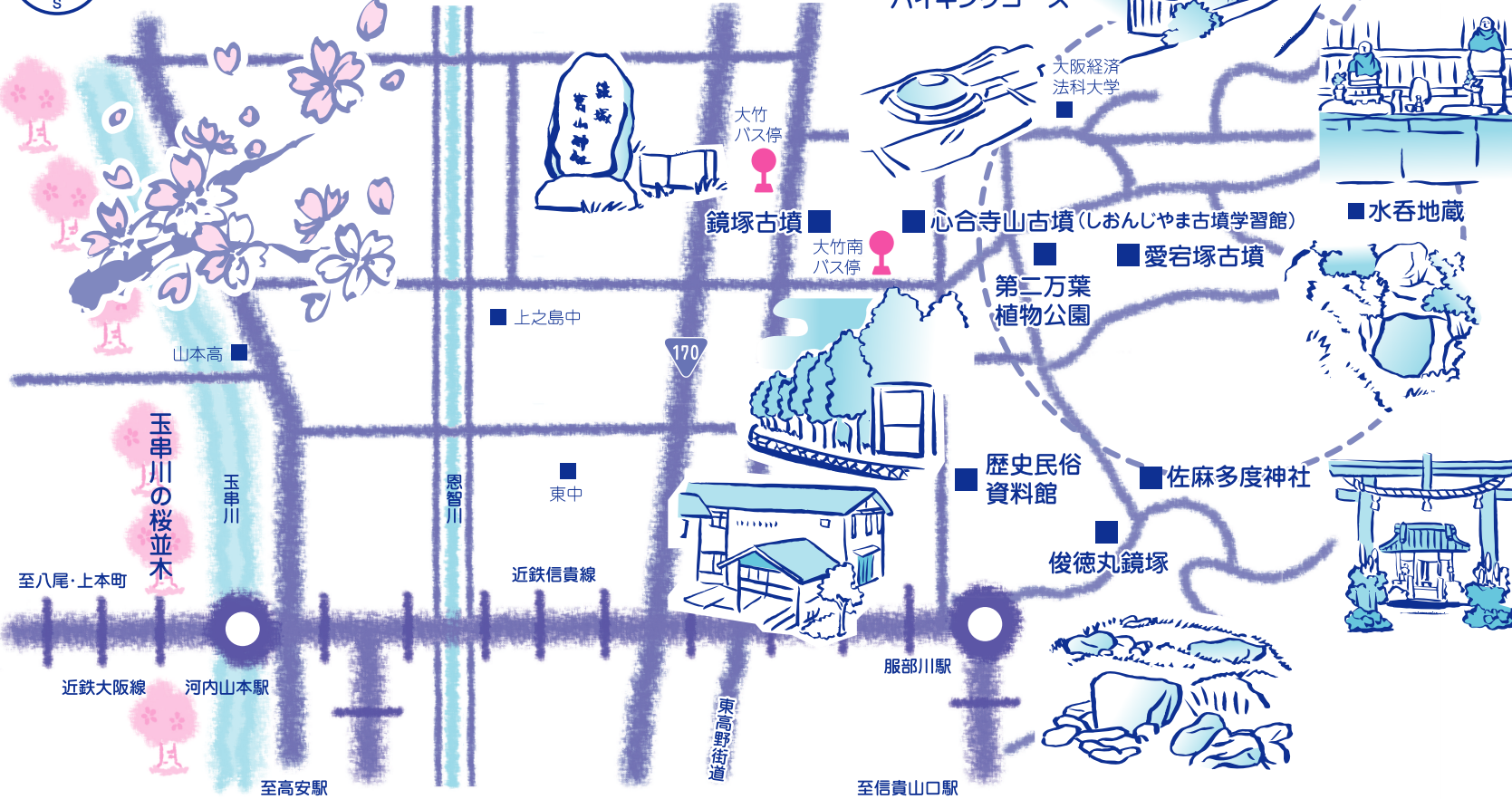
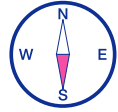


■心合寺山古墳へのアクセス:

- 近鉄大阪線 河内山本駅下車
- 近鉄バス瓢箪山駅行「大竹」バス停下車 東に徒歩約5分
- 愛あいバス東ルート「大竹南」バス停下車 北に徒歩約5分
- 近鉄信貴線 服部川駅下車
- 北に徒歩約20分



ハイキングコース

周辺は花き花木の産地として有名で、春や秋には出荷前の色とりどりの花が見られます。大小さまざまな古墳もあり、自然と歴史に触れ合えるハイキングコースになっています。また、周辺の農産物直売所では、朝採れの新鮮野菜などを販売しています。

水呑地蔵 (みずのみじぞう)

承和3年(836年)僧春演がここに地藏菩薩を安置してお堂を設けたといわれます。本堂の南側に小さいほこらがあり、石地蔵の前に2つのつぼがあってこんこんと清水が湧いています。俗に「弘法の水」といい、弘法大師が十三峠を越える旅人のために祈願して得た霊水で、現在でも脚気などの諸病にも効果があるといわれ、多くの人が訪れます。

心合寺山古墳 (しおんじやまこふん)

古墳時代中期の全長160mに及び中河内最大の前方後円墳で、昭和41年国の史跡に指定されました。「水の祭祀場を表した埴輪」や鏡・甲冑などの副葬品が出土し、史跡整備事業によって、当時の墳丘の形状や葺石、埴輪列などを復元しました。「しおんじやまこふん学習館」を併設しています。

鏡塚古墳 (かがみづかこふん)

標高17mのところであり、俗に「松山」とか、この土をいじると腹痛をおこすといわれているところから「腹痛山」と呼ばれています。墳丘の上部には粘土槨が残っているといわれ、火葬跡が2カ所と、石棺の蓋の破片も出土しています。古墳時代中期末の大型円墳で、大阪府の史跡指定をうけています。

愛宕塚古墳 (あたごづかこふん)

この古墳は古墳時代後期の代表的なもので、石組は極めて巨大な石を用い、大阪府下で最大級の横穴式の石室を持つ円墳です。標高70m、封土の高さ9m、直径22mです。この古墳からは鉄地金銅張の馬具等の豪華な副葬品が出土しており、高安地域の有力な首長の墓として、大阪府の史跡に指定されています。

俊徳丸鏡塚 (しゅんとくまるかがみづか)

この塚は謡曲の弱法師や浄瑠璃摂州合邦辻で名高い俊徳丸の塚と伝えられています。しかし、これは本来は6世紀に築造された横穴式の石室をもつ古墳です。石室の入口には歌舞伎役者の実川延若寄進の焼香台があります。

歴史民俗資料館 (れきしみんぞくしりょうかん)

文化財の保護、継承を目的として昭和62年11月に開館。文化財を収集・保存するとともに、展示して広く一般に公開し、市民の文化財に対する理解と郷土愛を育むための学習に寄与しています。

佐麻多度神社 (さまたどじんじや)

この神社は式内社で、当地山畑の産土神です。旧社地は100m上の扇状地の谷口天神山にあり、明治31年(1898年)現地へ移りました。境内に165kgの重さのあるもの他3個の力石があり、重さによって、1石3斗石、1石石、俵石などと称されていました。

第二万葉植物園 (だいにまんようしよくぶつこうえん)

昭和60年3月開設。万葉集に詠まれた植物約160種の中で、市東部一帯で100余種の品種が確認されます。これらは古代人の生活の中で、食用、薬用、染料、建築工芸、衣料などに使われました。ヤマモモなど高木53種、アセビなど低木573本があります。